

## 障害者の恋愛・結婚・妊娠

—周囲の反対とサポート—



結婚を前にした記念撮影に納まる度會俊介さんと菊代さん

### 「一緒になれないなら死ぬ」 知的障害の2人は反対を乗り越え 62歳で結婚した

度會俊介さんと菊代さん夫婦は、お互い62歳で結婚した。障害者手帳（療育手帳）の4段階の等級で俊介さんは4番目（軽度）、菊代さんは3番目（中度）だ。

出会ったのは30年ほど前。二人が結婚を現実的に考え始めたのは50歳前後になってからだ。当時、菊代さんはグループホームで生活、俊介さんは福祉事業所の支援を受けていたが、お互いの両親が亡くなったり介護が必要になったりして2人で支えあって暮らせないかと思うようになった。

ところが、家族やホームの職員ら支援者に結婚の希望を伝えると「2人で生活するのは無理だ」と反対された。

「一緒になれないんだったら、死んでもいい」とまで思った俊介さん

周囲の結婚の条件として提案した「成年後見制度」受け入れ、制度によって弁護士がついたこともあり、家族らが折れる形になり腫れて入籍した。

名古屋手をつなぐ育成会の元役員、永田さんは10年以上前から相談を受けており、「頑固なくらい2人の思いが変わらず、周りに訴え続けたことが家族や支援者の気持ちを変えたのだと思う」と話す。

2人は、菊代さんの母親と一緒に暮らしている。障害者福祉サービスでヘルパーが週1回訪問。俊介さん橋の水道局で清掃員として働き、菊代さんが通う作業所の工賃、障害年金を合わせてやりくりする。

共同通信の全国調査では、知的障害者役5人に1人は恋愛や結婚、出産を周囲から制限されていた。

俊介さんは「私たちにも、やってみればできることは結構ある。『だめ』と一方的に決めつけるのではなく、できないことは教えてほしい」と訴える。



## 障害者の恋愛・結婚・妊娠

—周囲の反対とサポート



食卓を囲む友佳さんと良貴さん

### 障害のある女性の妊娠と出産 ～自分の意志で選択するために必要な支援とは～

大阪市で暮らす友佳さん（31歳）は出産を控えている。友佳さんは全身の骨が弱く折れやすい「骨形成不全症」という難病で、身長は80センチほどである。日中は重度訪問介護のヘルパーが料理や着替え、トイレなどを解除している。障害者の就労支援施設で働く夫の良貴さんが帰宅した後は、良貴さんが友佳さんの介助を担っている。

幼いころから、お母さんになることが夢だったという友佳さん。友佳さんが子供を好きであることを知っている良貴さんも医師か

ら妊娠を告げられた時はとてもうれしかったという。良貴さんは育児休暇を取り、夫婦で力を合わせて子育てをしていく計画である。しかし友佳さんは、家族からの強い反対により出産に向けて大きな不安を抱えている。生まれた後の公的な支援についても不安が残る。障害のある人の子育てを支える仕組みが十分でない中、同家族の暮らしを守るのか、模索が続く日々である。

## 子育て支援 あるグループホームの試み

障害のある人たちの子育てを支える仕組みがまだ十分ではないなか、独自の工夫で支援に乗り出すところも出てきている。

グループホームでは障害のある入居者だけでなく、その子供の育児もサポートしている。その一つがお金のやりくりのサポートである。月に一度、グループホームの担当職員と一緒に確認する。

また、グループホームでは、親子が地域の様々な支援とつながるサポートもしている。

よしえさんの家庭には地元の自治体の子育て支援の担当者も支援に入り、娘のななせさんの小学校準備などを手伝っている。



自治体の子育て担当者から、小学校で使う持ち物への名前の書き方を教えてもらうよしえさん

### 〇感想

障害のある人も恋愛や結婚を周囲から制限されることはあってはならぬことだと感じた。しかし、現在それに対する明確な制度がないことも驚いた。学校を卒業してからも長く続く人生の中で障害のある人がより楽しく充実した生活ができるよう社会や周囲のサポートがとても大切になってくると考える。

## 参考文献・引用

共同通信＝市川・沢田（2023）

「一緒に慣れになら死ぬ」知的障害の2人は、反対を乗り越え  
62歳で結婚した 障害は重度だが「幸せ」な夫婦も

<https://news.yahoo.co.jp/articles/a932fd99b37658b944f70cb5375d9cda819db16a?page=1>

NHK福祉情報サイト ハートネット（2023）

障害のある女性の妊娠と出産

～自分の意志で選択するために必要な支援とは～

<https://www.nhk.or.jp/heart-net/article/829/>